



宮本靖夫画伯と‘始生代の石’

一昨年の夏以来、地質調査所本館の正面玄関ロビーの壁画を飾って‘始生代の石’と題する50号の油彩画が懸けられている。同画は制作者の宮本靖夫画伯により当所に寄贈されたものだが、画伯は不慮の怪我が元の病により昨春不幸にも他界された。享年55才であった。ここに謹んで画伯のご冥福をお祈り申しあげ、画伯と‘始生代の石’につき一言記しておきたいと思う。

宮本画伯は春陽会の重鎮、故岡鹿之助画伯に幼少より師事され、10年間のヨーロッパ留学の後、自らも春陽会員として活躍され、師譲りの誠実さと静かな気品にあふれる画風で識られた方であった。芸術家としてのその余りにも早い逝去を惜しむ辞の数々は会誌‘春陽’66号(1993)に詳しい。晩年の画伯は花卉や貝殻・クリスタルグラスなどを中心とした静物画のほか、三角形のコンポジションとしてサーカス小屋を描いたユニークな作品などを数多く残しているが、その40余年の画歴の一時期にさまざまな岩石の肌模様に惹かれたことがあり、溝の口時代の当所標本室で観察とスケッチに没頭する画伯の姿が見られたものである。‘始生代の石’はこの時期の制作の一つで、1978年の第55回春陽展に出品され、師の岡画伯をはじめ多くから注目された作品である。当所への寄贈は、画伯と縁戚関係にある元所員のS氏が画伯のアトリエを訪問の際にたまたま話もちあがり、にわか実現の運びとなったものである。



宮本靖夫画伯 略歴

- | | |
|-------|---|
| 1937年 | 東京に生まれる |
| 1947年 | 岡鹿之助氏に師事する |
| 1960年 | 多摩美術大学絵画科卒 |
| 1960～ | イタリー、フランスに留学、ローマ国立美術学校、パリのアカデミア・グランド・ショミエールなどで学ぶ。 |
| 1970年 | サロン・デ・ザンデバンダン会員に推挙 |
| 1966年 | パリ、トゥルネル画廊にて個展 |
| 1971年 | 第48回春陽展研究賞 |
| 1972年 | 滯欧作品個展(日本橋高島屋) |
| 1979年 | 春陽会員に推挙 |
| 1985年 | 昭和大学非常勤講師 |
| 1986年 | 個展(銀座フジエ画廊) |
| 1989年 | ＃ |
| 1993年 | 2月2日逝去 |